

GMB株式会社

2022年3月期決算説明資料

証券コード 7214



<https://www.gmb.jp>

注) 本資料中、当社の業績等に関わる数値は、表示桁数未満切捨てて記載しております。



I. 2022年3月期実績

II. 2023年3月期計画

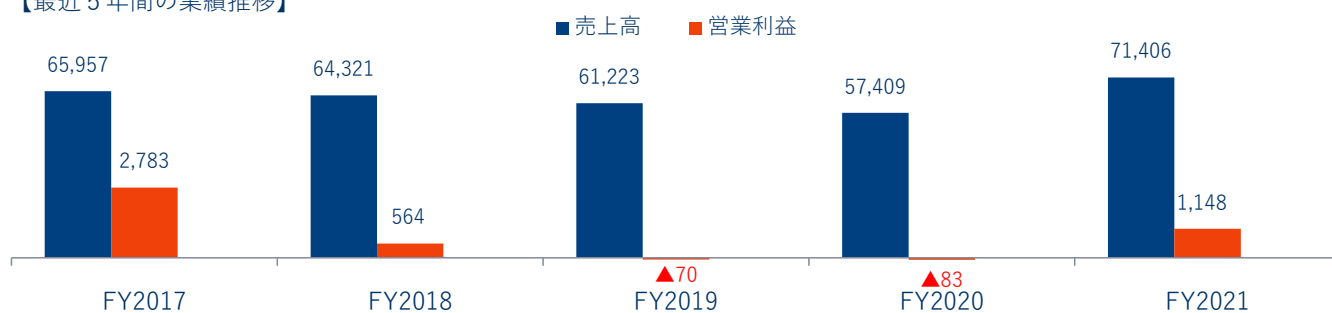
2022年3月期 損益実績



(単位：百万円・%)

	前期		当期		前期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	増減額	増減率(%)
売上高	57,409	(100.0%)	71,406	(100.0%)	13,997	+24.4
売上総利益	9,407	(16.4%)	11,801	(16.5%)	2,393	+25.4
営業利益	▲ 83	(▲0.1%)	1,148	(1.6%)	1,231	—
経常利益	▲ 420	(▲0.7%)	1,954	(2.7%)	2,374	—
純利益	▲ 315	(▲0.5%)	660	(0.9%)	975	—
EPS(円)	▲ 60.05		125.37			

【最近5年間の業績推移】

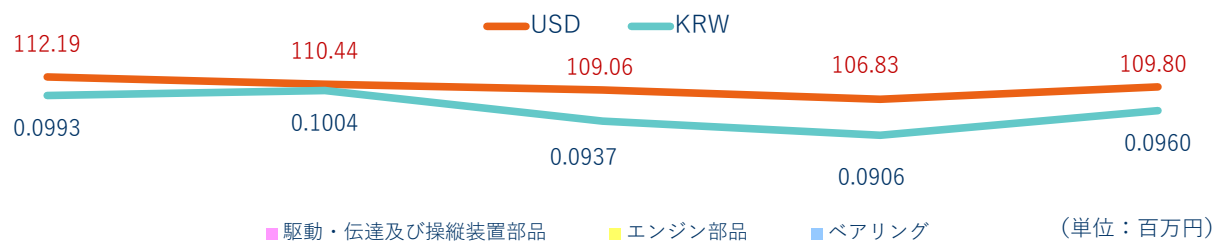


- 3 -

売上高の品目分類別実績推移



換算為替相場

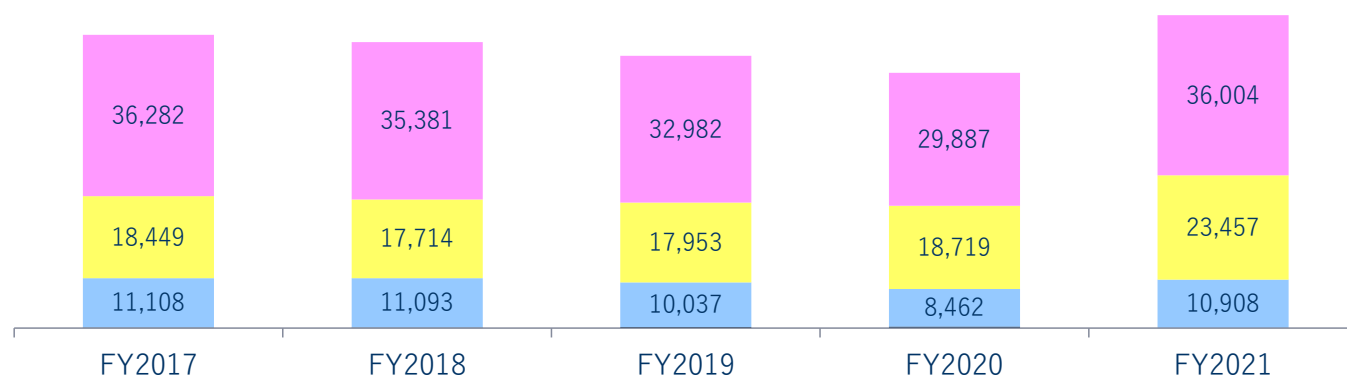


■ 駆動・伝達及び操縦装置部品

■ エンジン部品

■ ベアリング

(単位：百万円)



駆動系は、欧州向けの新車用および海外補修用のユニバーサルジョイントや韓国・中国の新車用バルブスプールなどの販売が増加。エンジン部品は、韓国の新車用電動ウォーターポンプや海外補修用ウォーターポンプなどが増加。ベアリングは海外補修用の各製品が増加。

- 4 -

セグメント実績推移① 日本・米国

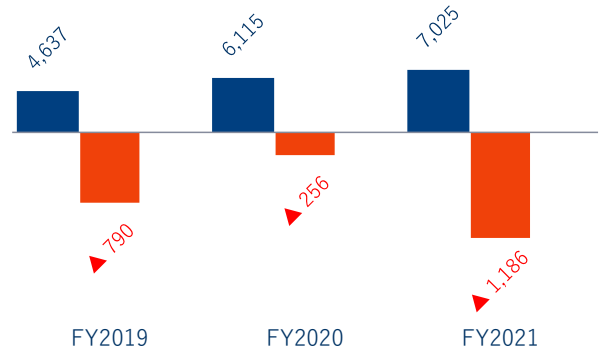
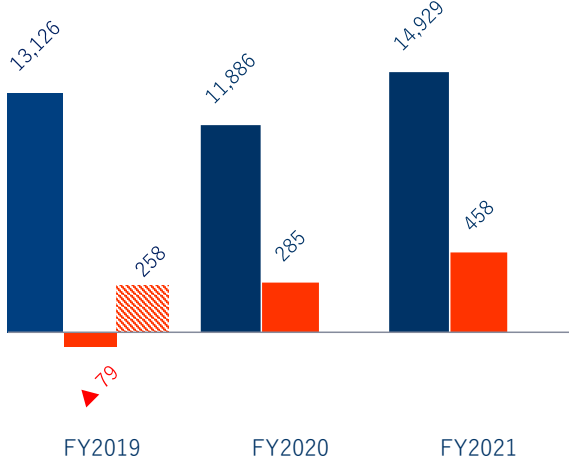
※セグメントはグループ各社の所在地による

(単位：百万円)

日本

米国

■ 外部売上高 ■ 営業利益 ■ 営業利益(※)
※役員慰労退職金を除いた参考値



海外を中心に、補修用・新車用部品ともに全般的に需要が回復するなかで販売は順調に推移し、増収増益。ただし、後半にかけて、海外調達品の納入遅れや物流混乱による生産・出荷の遅れや物流コストの上昇の影響も受ける。

バッテリー仲介販売も本格化し増収となるも、中国からの輸入関税が再び引き上げられ、更に上昇が続く調達価格と物流コストに対して価格転嫁が遅れたため、赤字拡大。

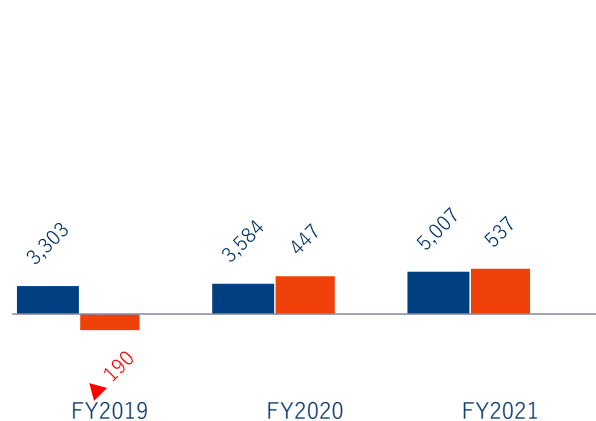
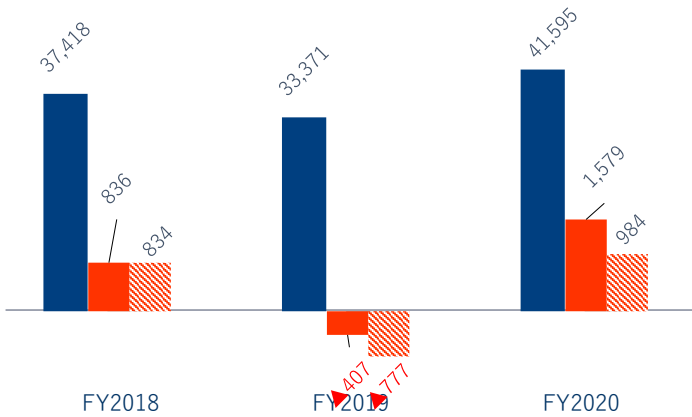
セグメント実績推移② 韓国・中国

(単位：百万円)

韓国

中国

■ 外部売上高 ■ 営業利益 ■ 営業利益(※)
※退職給付債務の数理計算上の差異を除いた参考値



全般的な需要回復と電動ウォーターポンプを中心とした新規量産案件の上乗せにより増収、黒字回復。前期の赤字の一因となった新製品に係る一時的なコストも減少。

中国国内市場の新車用部品が新規量産案件を含め販売は順調に推移し、グループ会社向け製品の生産も高い水準が続いたことから、増収増益。

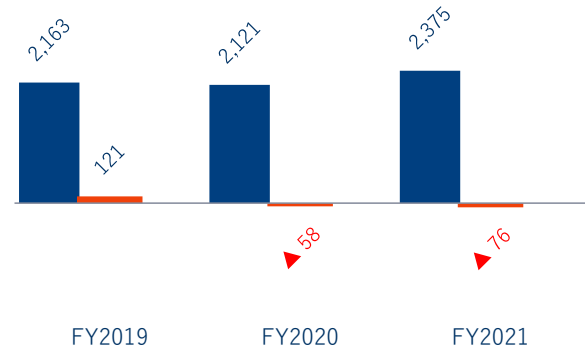
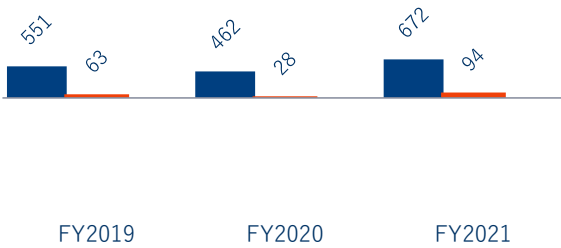
セグメント実績推移③ タイ・欧州

(単位：百万円)

タイ

欧州

■ 外部売上高 ■ 営業利益



タイ国内販売及び日本向けがともに増加・回復し、増収増益。

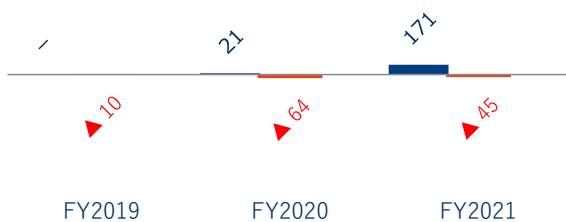
ルーマニア工場は需要回復傾向が続くも半導体不足の影響による生産調整もあり前期並み。ロシア工場は工場移転後の量産開始し売上増加するも、移転に伴うコストによって赤字拡大（※ウクライナ情勢の影響は翌2022年度に）。

セグメント実績推移④ 豪州

(単位：百万円)

豪州

■ 外部売上高 ■ 営業利益



2019年10月設立後3年目。ロックダウン等の影響によって営業活動の制限も徐々に緩和されるもコロナ前に見込んでいた販売量にはまだ到達せず、赤字継続。

営業利益以下の増減要因



(単位：百万円)

	前期実績	当期実績	増減額
営業利益	▲83	1,148	1,231
営業外収益	668	1,277	608
（うち為替差益）	(413)	(624)	(210) ※1
（うち持分法投資利益）	(-)	(7)	(7)
（うちデリバティブ評価益）	(-)	(330)	(330) ※1
（うち補助金収入）	(84)	(82)	(▲2)
営業外費用	1,006	472	▲534
（うち金融費用）	(489)	(430)	(▲58)
（うちデリバティブ評価損）	(391)	(-)	(▲391) ※1
（うち為替差損）	(-)	(-)	(-)
経常利益	▲420	1,954	2,374
特別利益	66	191	125
（うち減損損失戻入益）	(-)	(151)	(151) ※2
特別損失	141	76	▲65
（うち減損損失）	(81)	(45)	(▲36) ※3
税引前利益	▲496	2,069	2,566
法人税等	130	745	614
少数株主持分損益	▲311	664	975
純利益	▲315	660	975

※1
韓国子会社におけるデリバティブ評価損益は、為替差損益とほぼ相殺されるが、当期は日本本所で、期末に円安が進行したことによる外貨資産の換算差益大きく膨らみ、韓国の為替差損を上回る為替差益が発生。

※2
前期・前々期と続けて収益性の低下によって減損処理した中国の一部工場で業績回復したこともあり、減損処理を戻入処理。

※3
当期の減損損失は豪州子会社の収益性低下によるもの。

- 9 -

キャッシュフローの実績



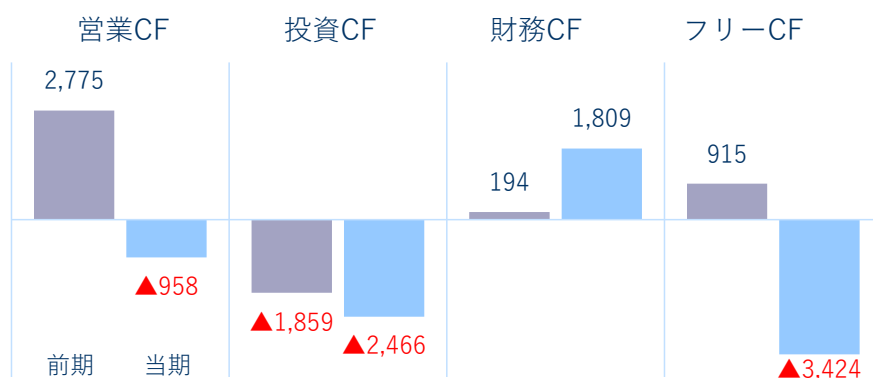
(単位：百万円)

	前期	当期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	2,775	▲958	▲3,734
投資活動によるキャッシュフロー	▲1,859	▲2,466	▲606
財務活動によるキャッシュフロー	194	1,809	+1,614
フリーキャッシュフロー	+915	▲3,424	▲4,340

【 当期の主な内訳 】

● 営業CF	
税金等調整前利益	2,069 百万円
減価償却費	3,338
売上債権の増加	▲432
たな卸資産の増加	▲4,733 ※
仕入債務の増加	541
法人税の支払額	▲419
● 投資CF	
設備投資	▲3,632
補助金収入（韓国）	873
● 財務CF	
借入金の増加	2,516
社債の償還	▲497
配当金の支払い	▲52

※ 物流混乱と調達リードタイムの長期化により、部材を多めに確保したことや、生産するも出荷・船積待ちとなるなどして、全体的に在庫が増加



- 10 -

I. 2022年3月期実績

II. 2023年3月期計画

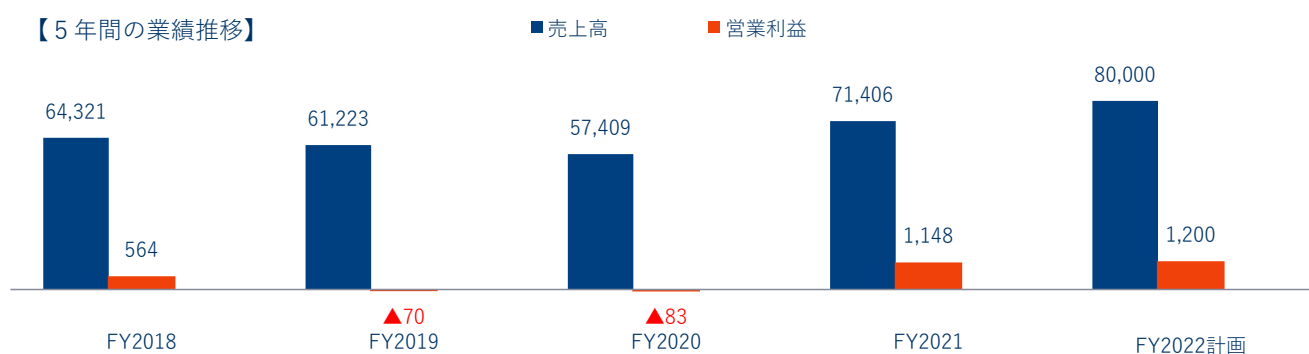
- 11 -

2023年3月期 損益計画

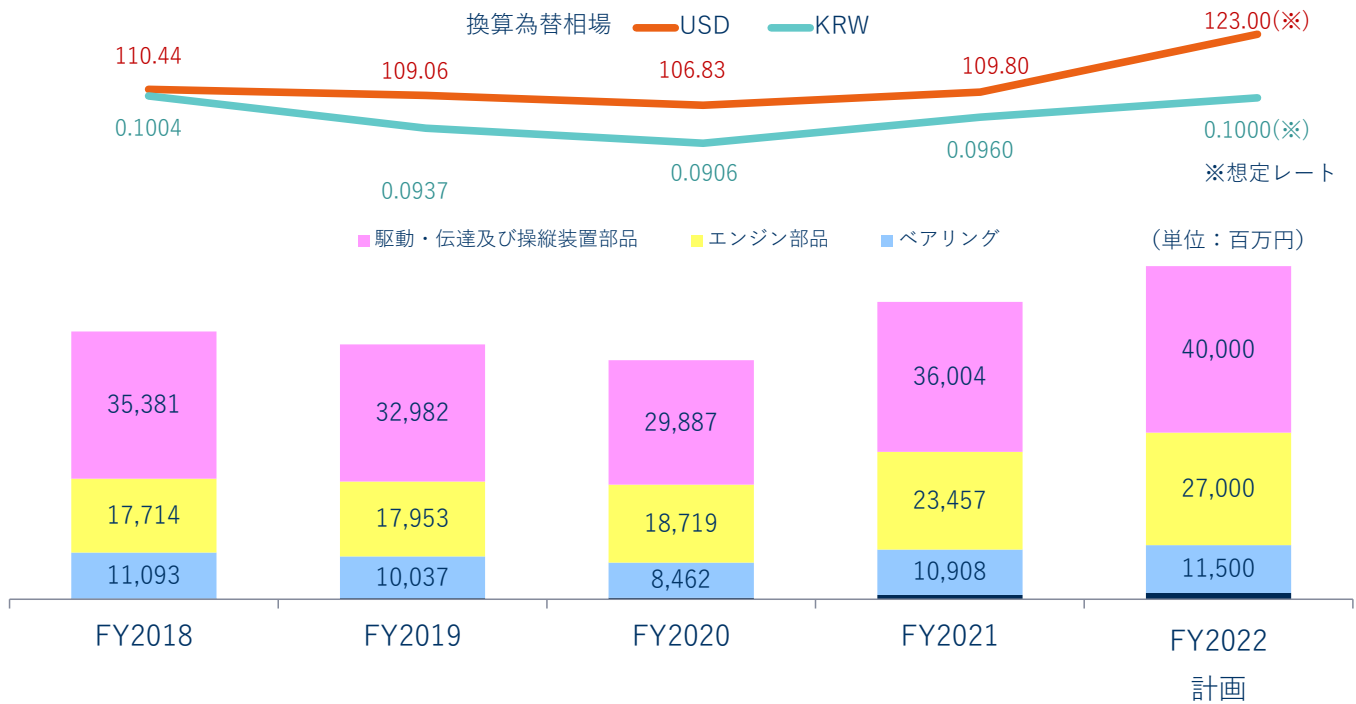
(単位：百万円・%)

	前期		当期		前期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	増減額	増減率(%)
売上高	71,406	(100.0%)	80,000	(100.0%)	8,593	+12.0
売上総利益	11,801	(16.5%)	13,000	(16.3%)	1,199	+10.2
営業利益	1,148	(1.6%)	1,200	(1.5%)	51	+4.5
経常利益	1,954	(2.7%)	900	(1.1%)	▲ 1,054	▲ 53.9
純利益	660	(0.9%)	300	(0.4%)	▲ 360	▲ 54.6
EPS(円)	125.37		56.92			

【5年間の業績推移】



売上高の品目分類別計画



駆動系は、韓国での等速ジョイント、・欧州向けユニバーサルジョイント、韓国・中国での新車用バルブスプールの増加を計画。エンジン部品は、韓国での新車用電動ウォーターポンプや海外補修用ウォーターポンプの増加を計画。ベアリングは、日本や韓国の補修用を中心とした増加を計画。

セグメント計画① 日本・米国

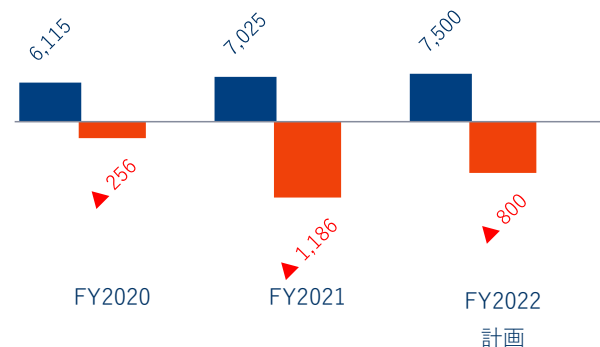
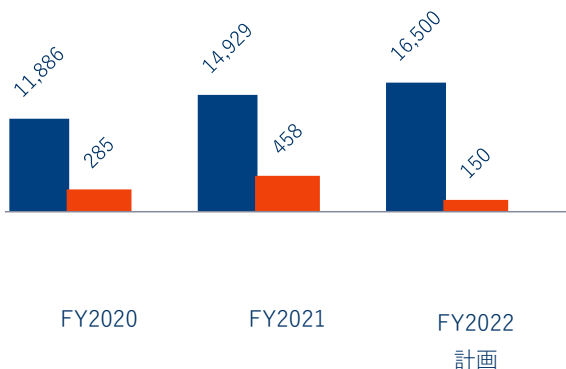
※セグメントはグループ各社の所在地による

(単位：百万円)

日 本

米 国

■ 外部売上高 ■ 営業利益



前期からの受注残高の解消を含めて海外の補修用部品や欧州向け新車用ユニバーサルジョイントの販売増加を見込むも、調達コストや物流コストの高騰を吸収しきれず減益の計画。

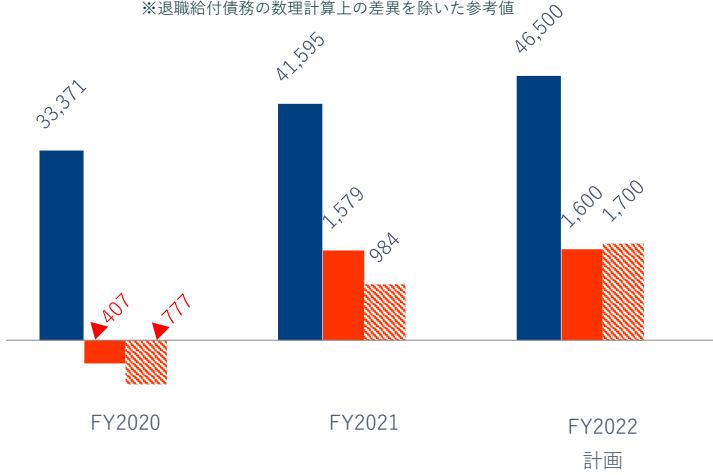
販売価格値上と米国の対中輸入関税の減少により赤字幅の減少を計画する。不採算取引の見直し、更なる販売価格値上、バッテリーの仲介販売の拡大等の対策により、もう一段の再建に取り組む。

セグメント計画② 韓国・中国

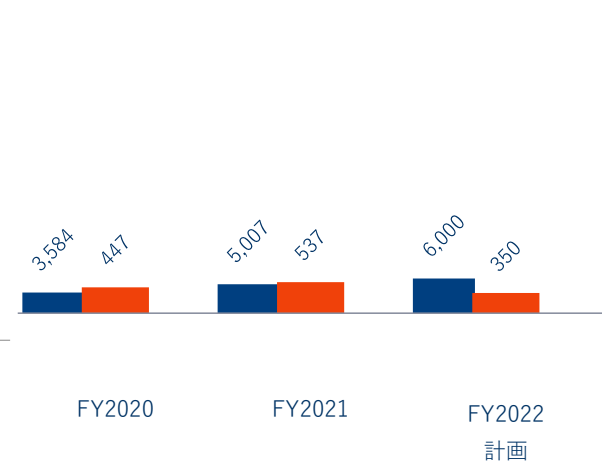
(単位：百万円)

韓国

■ 外部売上高 ■ 営業利益 ▨ 営業利益(※)
 ※退職給付債務の数理計算上の差異を除いた参考値



中国



前期に続き電動ウォーターポンプを中心に増収を計画。販売単価変動や調達コスト上昇に対して、販売増加やコストダウン努力などによって前期並みの利益を見込む。

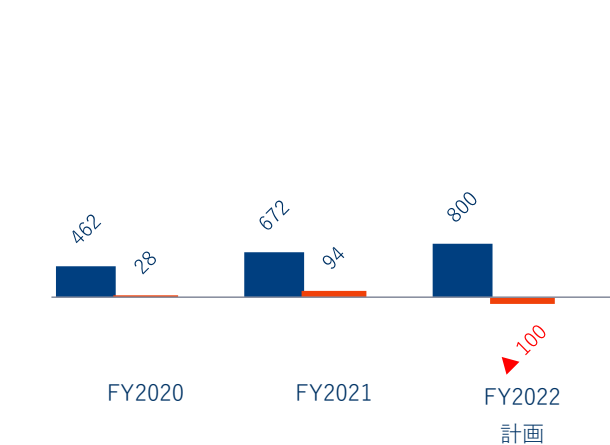
前期からの中国国内向けの新規量産案件が通期で貢献することで増収を計画するも、鋼材等の原材料価格の値上がりにより、減益を計画。

セグメント計画③ タイ・欧州

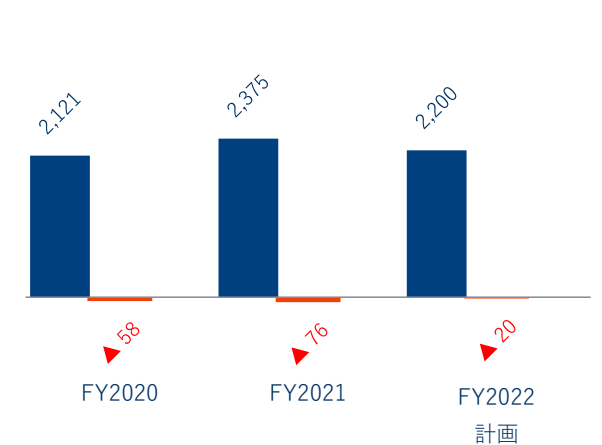
(単位：百万円)

タイ

■ 外部売上高 ■ 営業利益



欧州



タイ国内向けサスペンションの販売増加を計画。グループ会社向け製品を含め生産量は増加するものの、アルミ等の原材料価格の上昇や部品調達の遅れにより減益を計画。

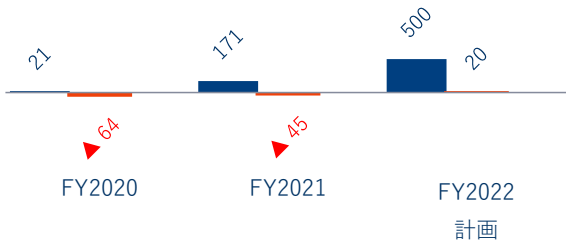
ルーマニア工場はウォーターポンプを中心に前期並みを計画。ロシア工場はウクライナ情勢の影響で3月以降工場稼働停止を見込む。前期後半に移転した新工場での増産が開始しており、結果的に欧州全体では前期並みの売上となる計画。

セグメント計画④ 豪州

(単位：百万円)

豪 州

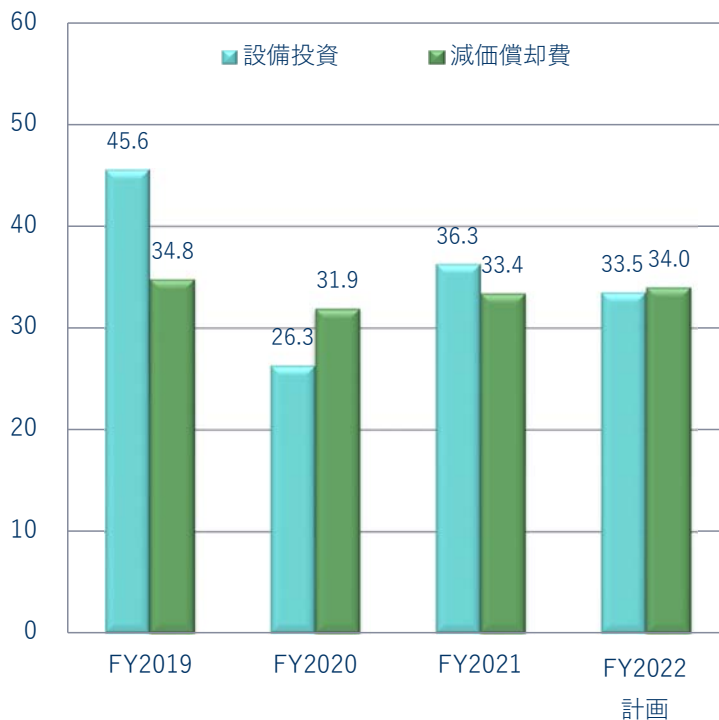
■ 外部売上高 ■ 営業利益



現地での新規顧客開拓や日本顧客の現地化により増収&黒字化を計画。

設備投資・減価償却費

設備投資・減価償却費の推移



FY2022 設備投資計画の内訳

(単位：億円)

	投資額	主な内容
日本	5.0	維持・合理化
韓国	15.5	新規開発・増産等
中国	7.5	増産・維持・更新等
タイ	3.5	維持等
欧州	2.0	増産等
計	33.5	

- 将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 本資料および当社IRに関連するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

<お問い合わせ先>
G M B 株式会社 経営企画部
電話 : 0745-44-1912
Email : ir@gmb.jp